

## 定量的調査

### 1 アメリカの花き産業統計情報の収集

米国内の卸業者およびフローリストへのヒアリングを実施し、米国内における花き産業統計の有無について調査を行った結果、アメリカの花き業界団体として The Society of American Florists (米国フローリスト協会) が全米規模での産業統計の取りまとめを行っていることを把握した。同協会は全米の花き産業に関する統計情報を有償で公開しており、同協会が公開する情報が米国で最も参考に値する統計情報であると業界では認識されている。ただし、米国内の業界内では統計情報に関する情報に対する関心は極めて低く、欧州や日本と比べて統計情報を用いたマーケティング手法はさほど重要性をもたないものと感じられた。以下、得られた統計情報を取りまとめ掲載する。

#### (1) 花き販売量と金額の動向

アメリカでは国勢調査が5年に1度実施され、花き産業に関しても調査が行われている。最新の国勢調査は2005年であり、現在入手可能な最新情報はほとんどが同年のものとなっている。

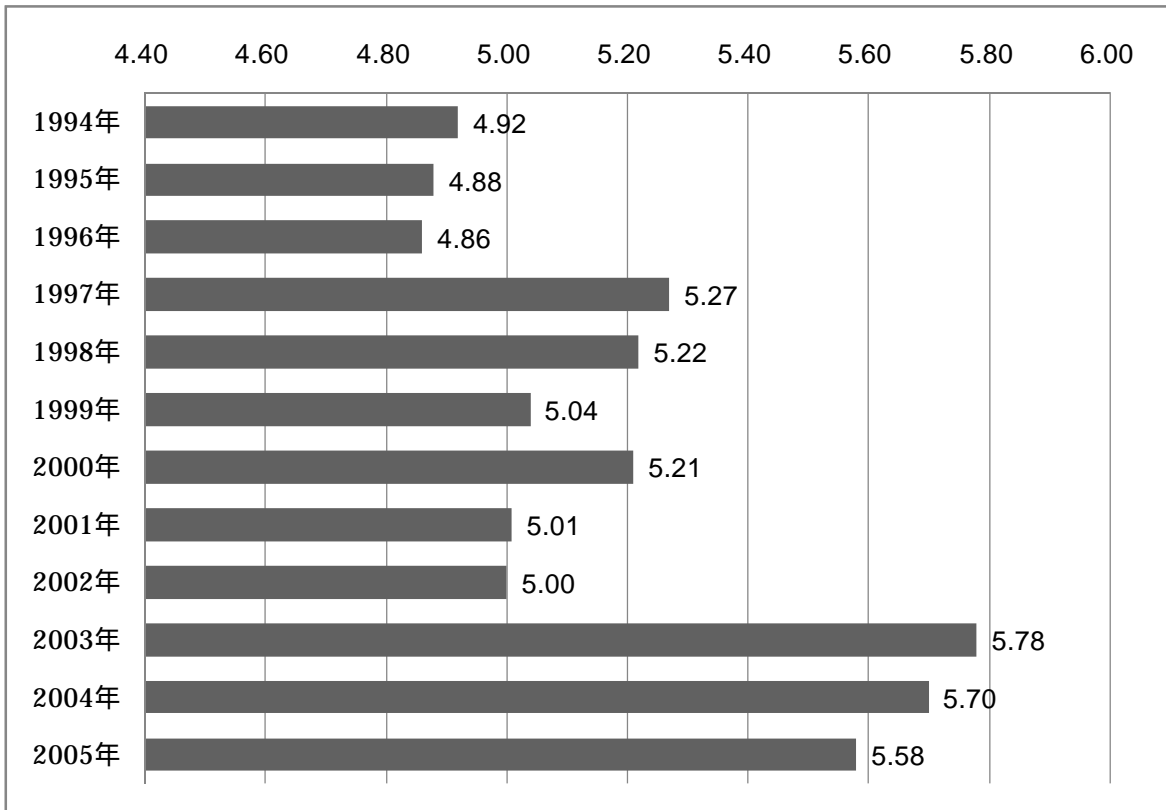
2003年から2005年までの3年間では世帯当たりの花き平均購入額が毎年上昇し、年間支出総額も増えている(表1)。一方で、購入回数については2003年に急激に増加したものの、その後低下しているが(図1)、1回あたりの購入金額は上昇傾向にある(図2)。品目別の販売割合は花壇苗が最も多く、次いで切花、鉢物、葉物、造花・ドライフラワーとなっており(図3)、ガーデン需要が多いことが見て取れる。花きの購入場所としては量販店が一番多く、次いで一般小売店、伝統的な花屋の順となっている(図4)。

【表1】米国における1世帯当たりの花きの平均購入額及び年間支出総額

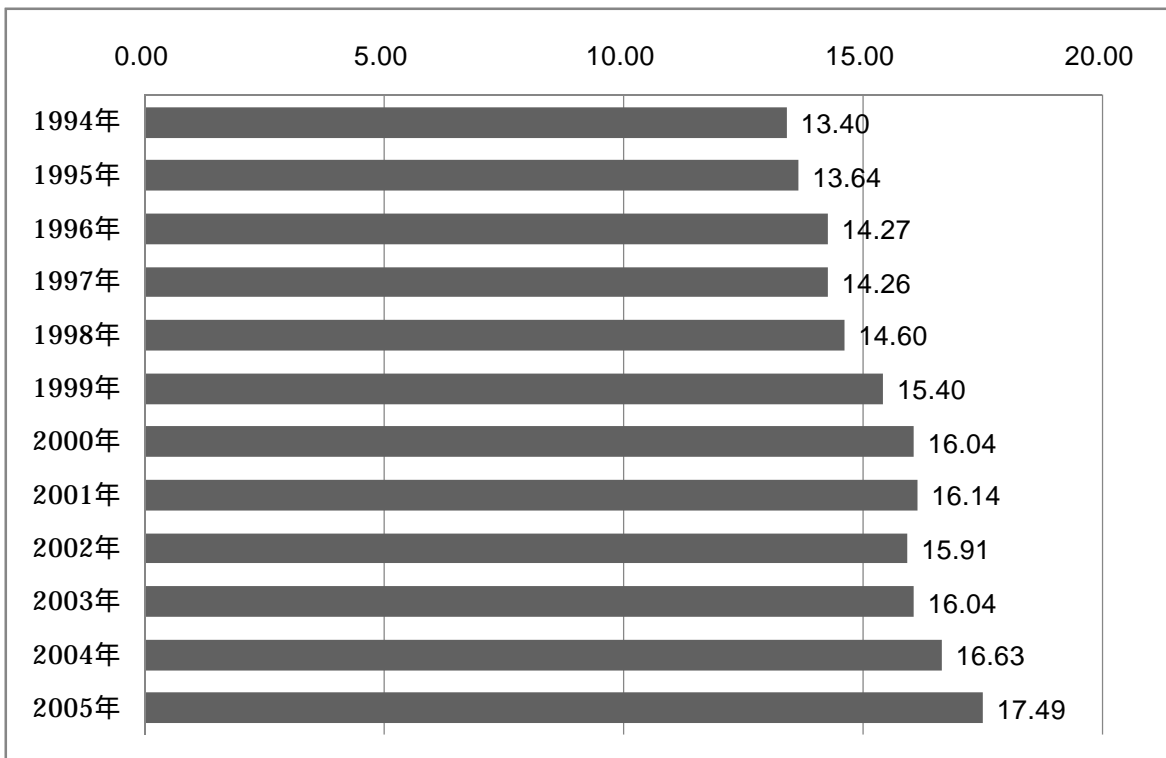
	平均購入額	推移(%)	年間支出総額	推移(%)
2003年	\$ 16.04	-	\$ 92.75	
2004年	\$ 16.63	3.7	\$ 94.79	2.2
2005年	\$ 17.49	5.2	97.64	3.0

〔出所：“The Changing Floriculture Industry, A Statusutual Overview, Fourth Edition, 2007” The Society of American Florists’ Business & Economic Trends Committee を元に作成  
以下全て同じ〕

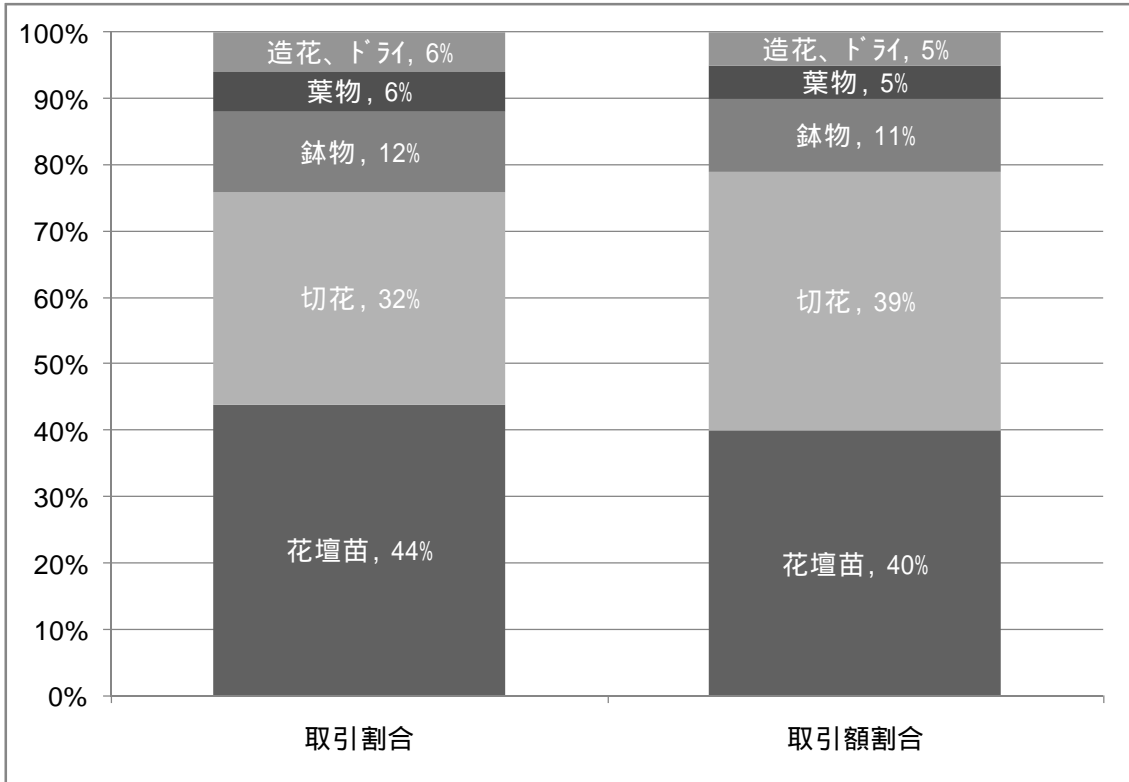
【図1】米国における1世帯当たりの花きの購入回数の推移（単位：回）



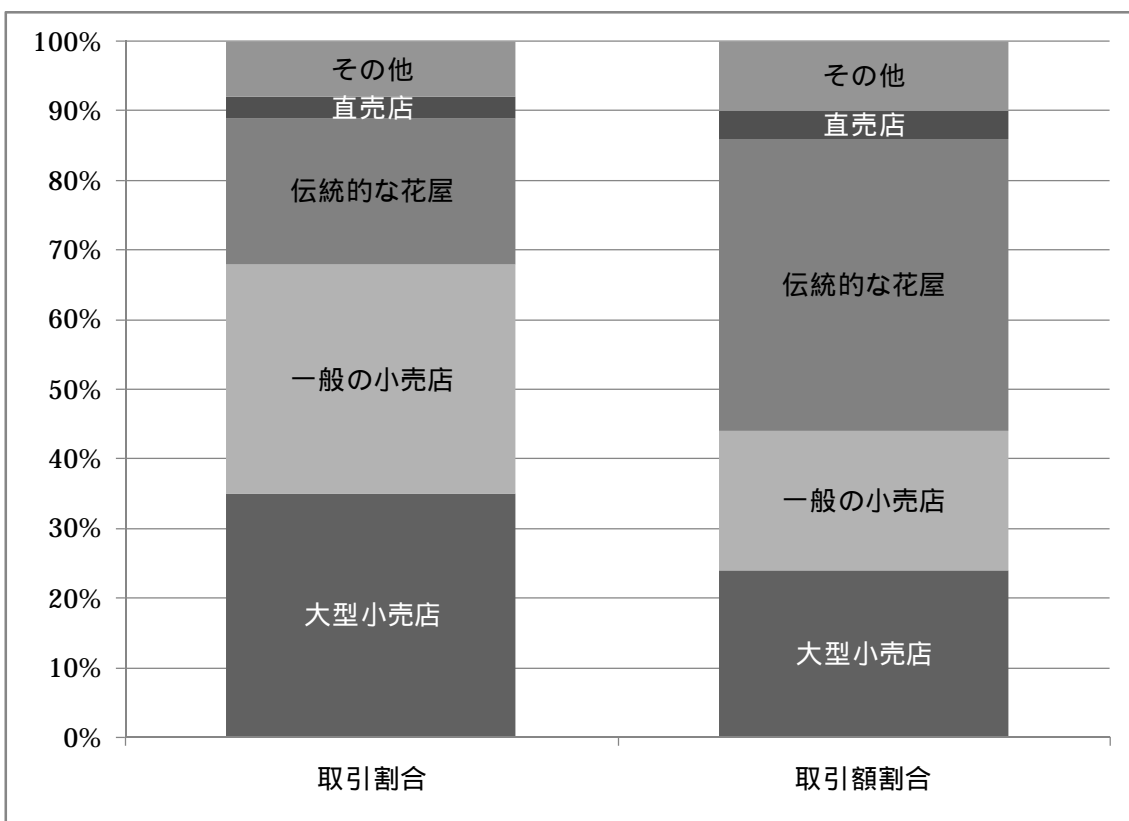
【図2】米国における1回当たりの花きの購入金額の推移（単位：USドル）



【図3】米国における花きの品目別販売割合

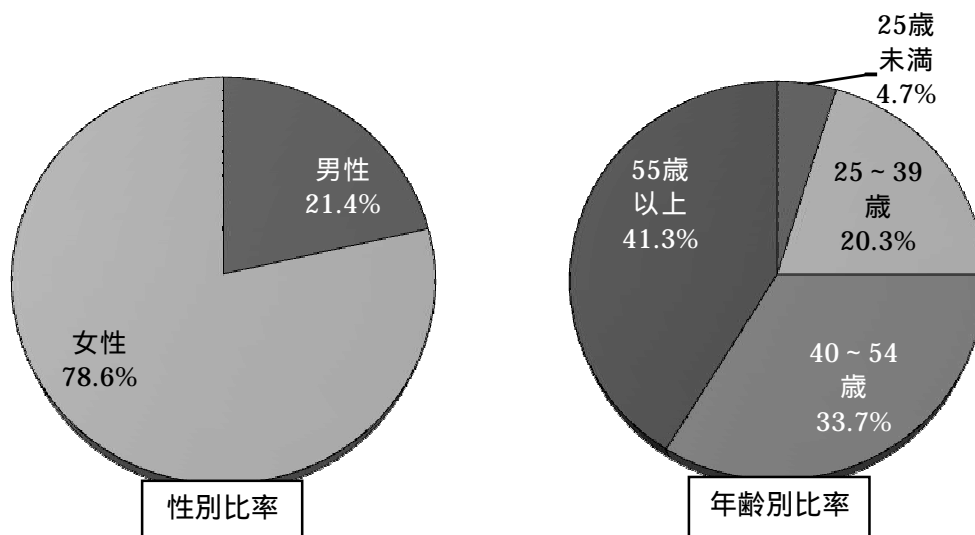


【図4】米国における花きの購入先別割合



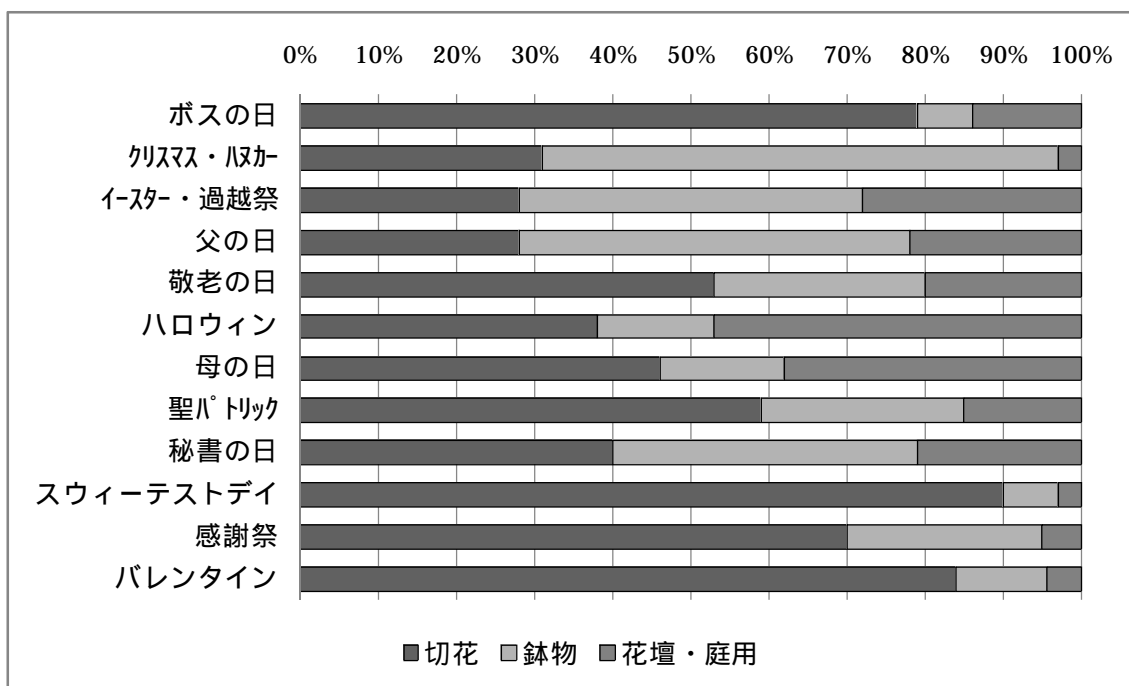
花き購入者の性別分布では女性が圧倒的に多く、年齢別分布では消費の75%が40歳以上の消費者で占められている（図5）。

【図5】米国における花き購入者の性別比率及び年齢別比率



購入機会別にみると、物日によっては購入傾向が異なる。切花であると、「ボスの日」、「スイーテストデー」、「バレンタインデー」で購入比率が著しく高く、鉢物では「クリスマス」や「父の日」で鉢物を購入比率が高くなる傾向がみられる（図6）。

【図6】米国における物日に購入される花き品目割合

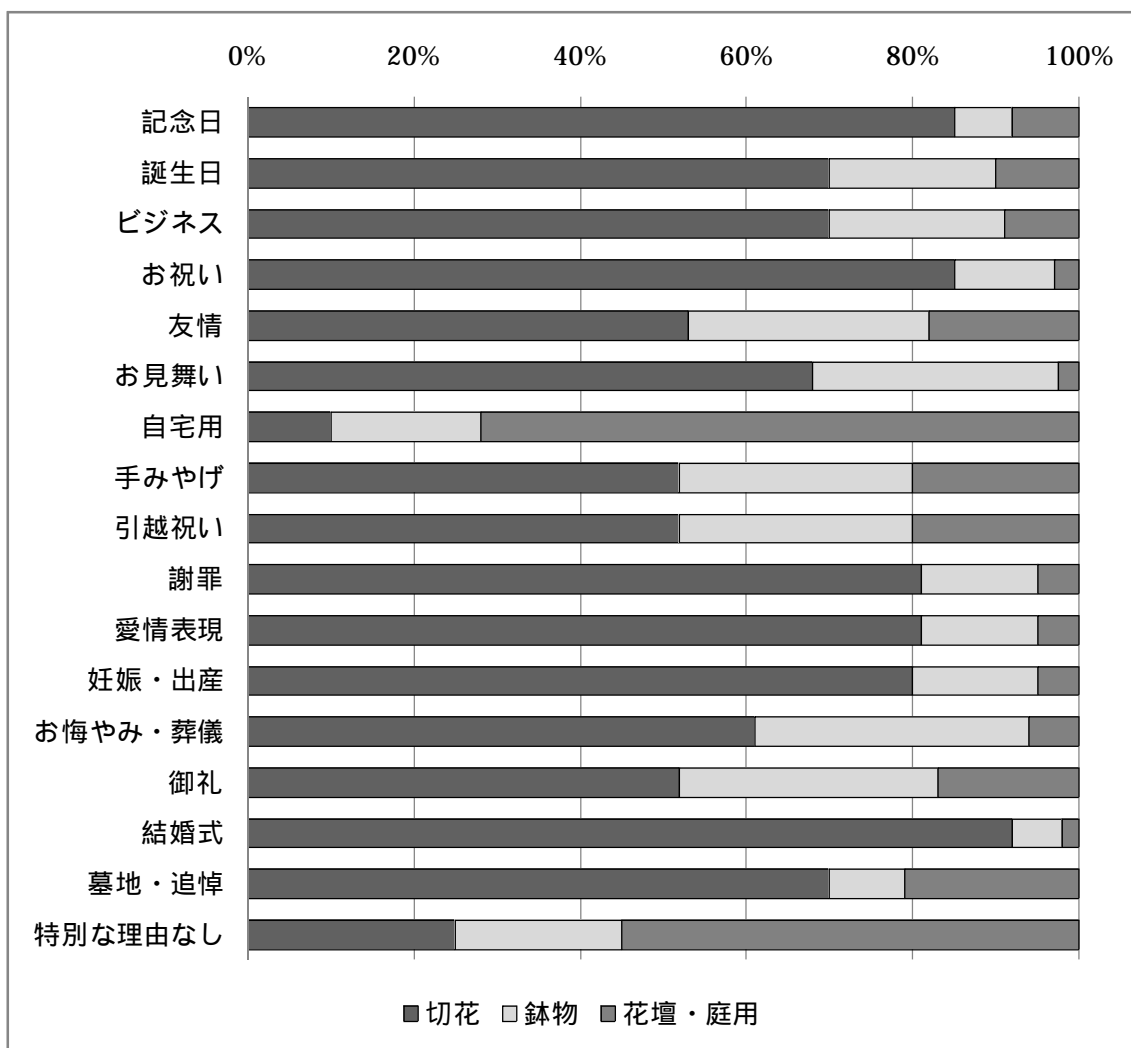


【表2】米国における花き需要に係る物日

物日の名称	日にち	備考
Boss' Day (ボスの日)	10月16日	会社の上司に感謝を表す日。
Christmas (クリスマス)	12月25日	キリスト教の記念日でイエス・キリストの誕生を祝う。
Chanukah (ハヌカー)	ユダヤ歴「キスレブ」の月の25日から8日間	ユダヤ教の年中行事のひとつ。2009年は12月11日～19日。
Easter (イースター/復活祭)	春分の日後の最初の満月の次の日曜日	キリスト教の祝日で、イエス・キリストがよみがえったことを記念する。2009年は4月12日(正教は19日)
Passover (ペサハ/過越祭)	ユダヤ暦1月(Nisan)の14日から8日間	ユダヤ教の祝日で、エジプトからの脱出を祝うもの。
Farther's Day (父の日)	6月の第3日曜日	父へ感謝を表す日。アメリカの祝日。
Grandparent's Day (祖父母の日)	9月第2日曜日	祖父母へ感謝を表す日。
Halloween (ハロウィン)	10月31日	カトリックの諸聖人の日(万聖節)である11月1日の前晩に行われる伝統行事。
Mother's Day (母の日)	5月の第2日曜日	母への感謝を表す日。アメリカの祝日。
St. Patrick's Day (聖パトリック・デー)	3月17日	アイルランドにキリスト教を広めた聖人聖パトリックの命日。
Administrative Professional Day (秘書の日)	4月の7日間ある週の最後の水曜日	ボスが秘書やスタッフに感謝を表す日。
Sweetert Day (スウィーテストデー)	10月の第3土曜日	愛する人に愛を表現する日。または友人へ感謝を表す日。お菓子や花が贈られる。
Thanksgiving Day (感謝祭)	11月の第4木曜日(アメリカ)	イギリスからの移住者(ピルグリム)の初めての収穫を記念したお祭り。アメリカとカナダの祝日。カナダは10月の第2日曜日。
Valentine's Day (バレンタインデー)	2月14日	男女の愛の誓いの日。

また、物日以外では全般的に切花購入比率が高いが、自宅用には圧倒的に鉢物購入比率が高い傾向にある（図7）。

【図7】米国における物日以外の花き購入機会における品目別割合



## (2) 花き生産量の動向

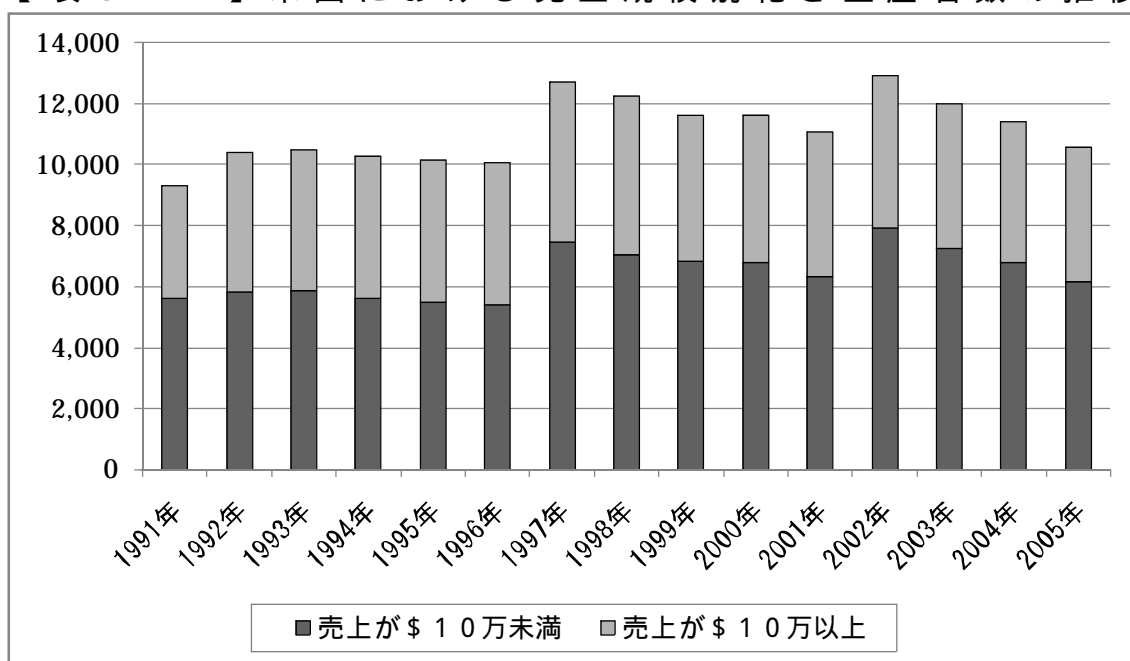
アメリカ全土における花き生産者の売上高総額は増加の一途をたどっているが、2002年をピークに生産者数は減少する傾向にある。また、売上高が10万ドルを超える生産者の比率が年々増加し、2005年には約95%を占めるまでにいたっており、零細規模の生産者は生き残れない状況にある（表3-1～3）。

【表3-1】米国における売上規模別の花き生産者数

全生産者			売上が10万ドル以上の生産者			
年	生産者	売上高 (単位:千ドル)	生産者数	全生産者に占める割合	売上高 (単位:千ドル)	全体の売上比率
1991	9,312	\$2,910,213	3,687	39.6%	\$2,658,555	91.3%
1992	10,395	\$3,135,974	4,566	43.9%	\$2,874,734	91.7%
1993	10,463	\$3,073,126	4,585	43.8%	\$2,810,296	91.5%
1994	10,263	\$3,246,912	4,635	45.2%	\$2,993,427	92.2%
1995	10,158	\$3,328,632	4,657	45.9%	\$3,073,797	92.3%
1996	10,070	\$3,407,320	4,683	46.5%	\$3,152,305	92.5%
1997	12,717	\$3,896,050	5,244	41.2%	\$3,557,545	91.3%
1998	12,259	\$3,947,517	5,199	42.4%	\$3,641,232	92.2%
1999	11,625	\$4,096,560	4,793	41.2%	\$3,772,275	92.1%
2000	11,624	\$4,576,585	4,851	41.7%	\$4,253,980	93.0%
2001	11,081	\$4,802,555	4,738	42.8%	\$4,496,225	93.6%
2002	12,916	\$5,089,514	4,974	38.5%	\$4,754,177	93.4%
2003	11,996	\$5,082,172	4,732	39.4%	\$4,769,887	93.9%
2004	11,385	\$5,284,643	4,612	40.5%	\$4,985,408	94.3%
2005	10,563	\$5,363,021	4,412	41.8%	\$5,083,421	94.8%

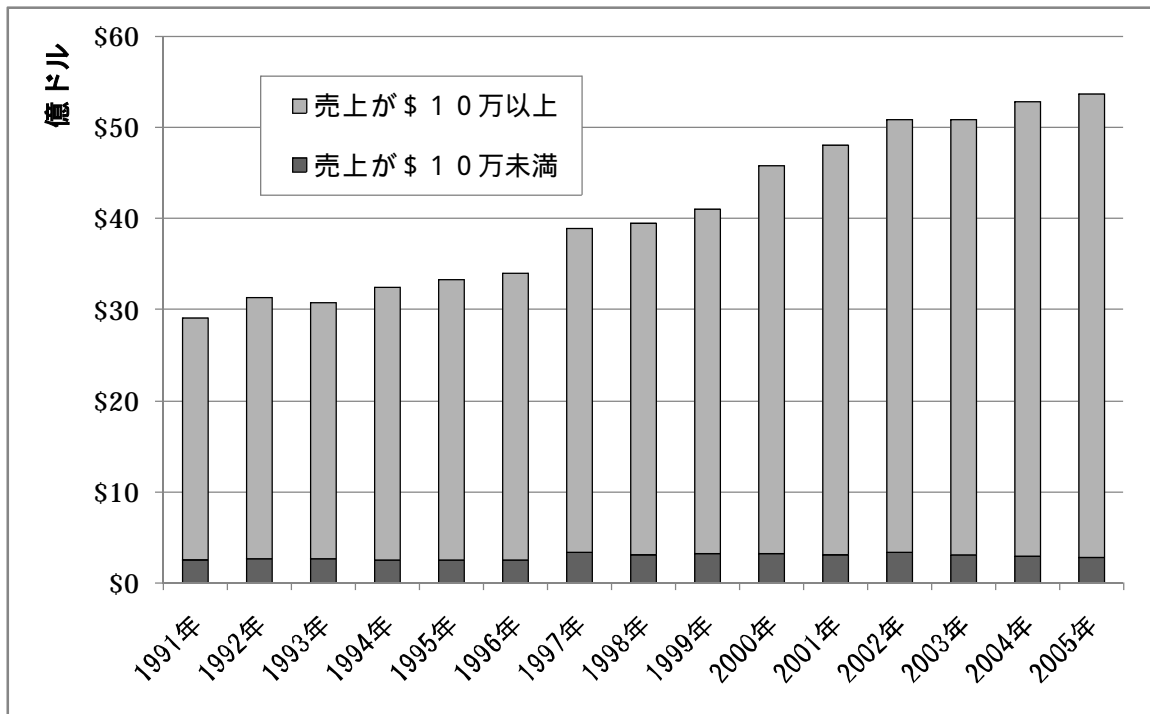
(備考: 2005年は概算値)

【表3-2】米国における売上規模別花き生産者数の推移



(表3-1を元に制作)

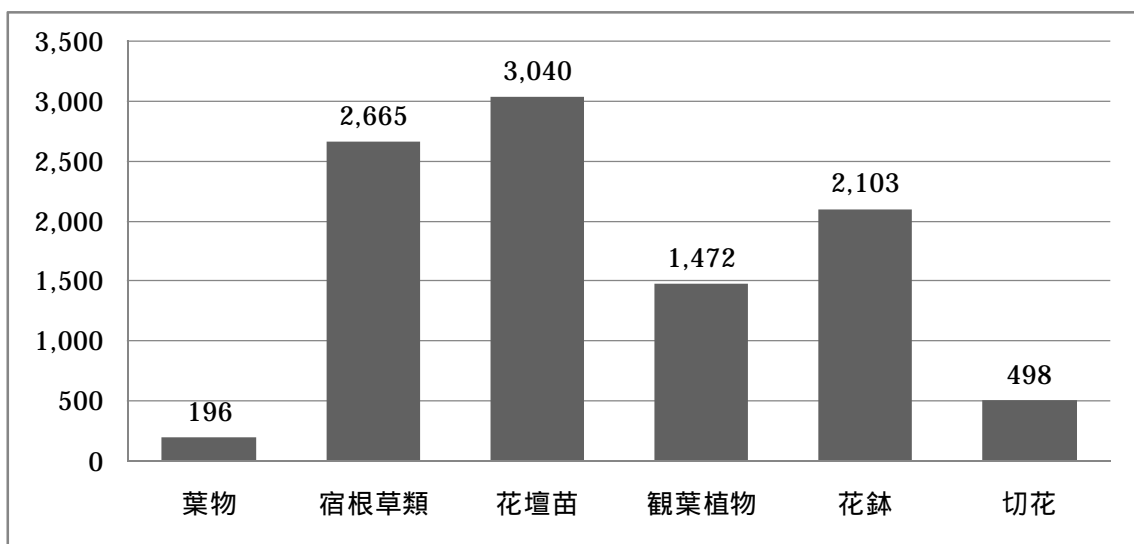
【表3-3】米国における売上規模別花き生産額の推移



アメリカ国内での花き生産における栽培種別では、花壇苗、草本性宿根草、鉢花、観葉、切花、切葉の順に生産者数が多いが、切花と切葉の生産者はきわだって少ない。恵まれた気候条件を活かして低コスト大量生産を実践する南米をはじめとする諸外国からの輸入商品との激しい競争のあおりを受けやすい切花と葉物の生産を敬遠する傾向が強いことが伺える(図8)。

【図8】米国における種類別花き生産者数(2005年)

(売上10万ドルの経営規模)





国内生産が盛んな切花品目としては、チューリップ、ユリ、グラジオラス、ガーベラ、バラ、アイリスが圧倒的に多く、その他にもキンギョソウ、デルフィニウムとラクスパーなどの生産が比較的多い(図4)

【図4】米国における主要品目の生産量(2006年)

品目名	生産量 (単位:1,000本)
チューリップ	118,156
ユリ	114,081
グラジオラス	105,414
ガーベラ	104,675
バラ	99,737
アイリス	88,739
キンギョソウ	46,126
デルフィニウム・ラクスパー	33,199
ピンポンギク	12,318
トルコギキョウ	12,282
ラン	10,346
カーネーション(スタンダード)	8,953
アルストロメリア	7,257
キク	164

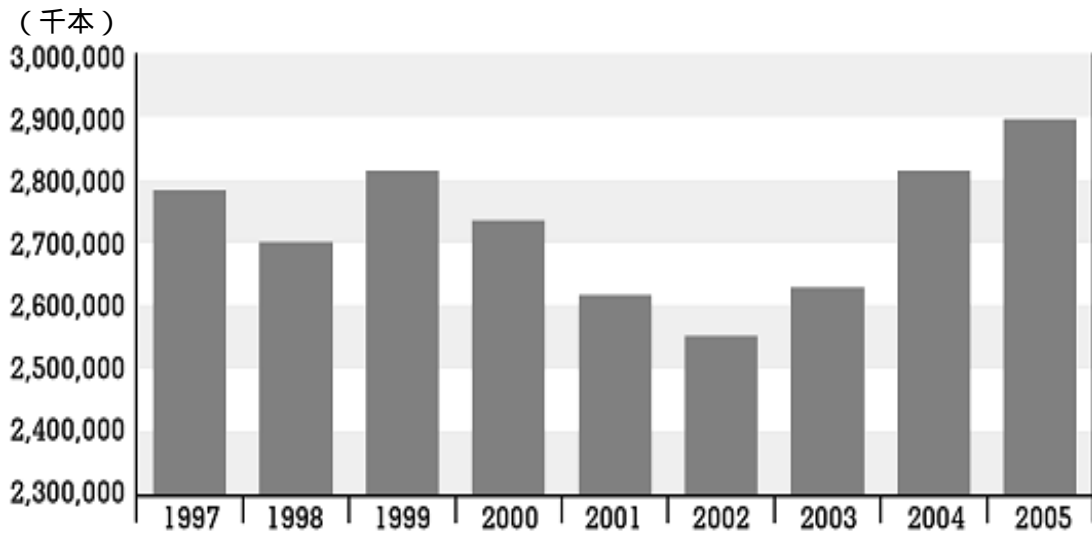
### (3) 花き輸入量の動向

アメリカは鉢物に対しては厳しい輸入規制を敷いていることは周知の事実である。そのため基本的にほとんどの鉢物は輸入が事実上不可能となっており、輸入される花きのほとんどが切花である。

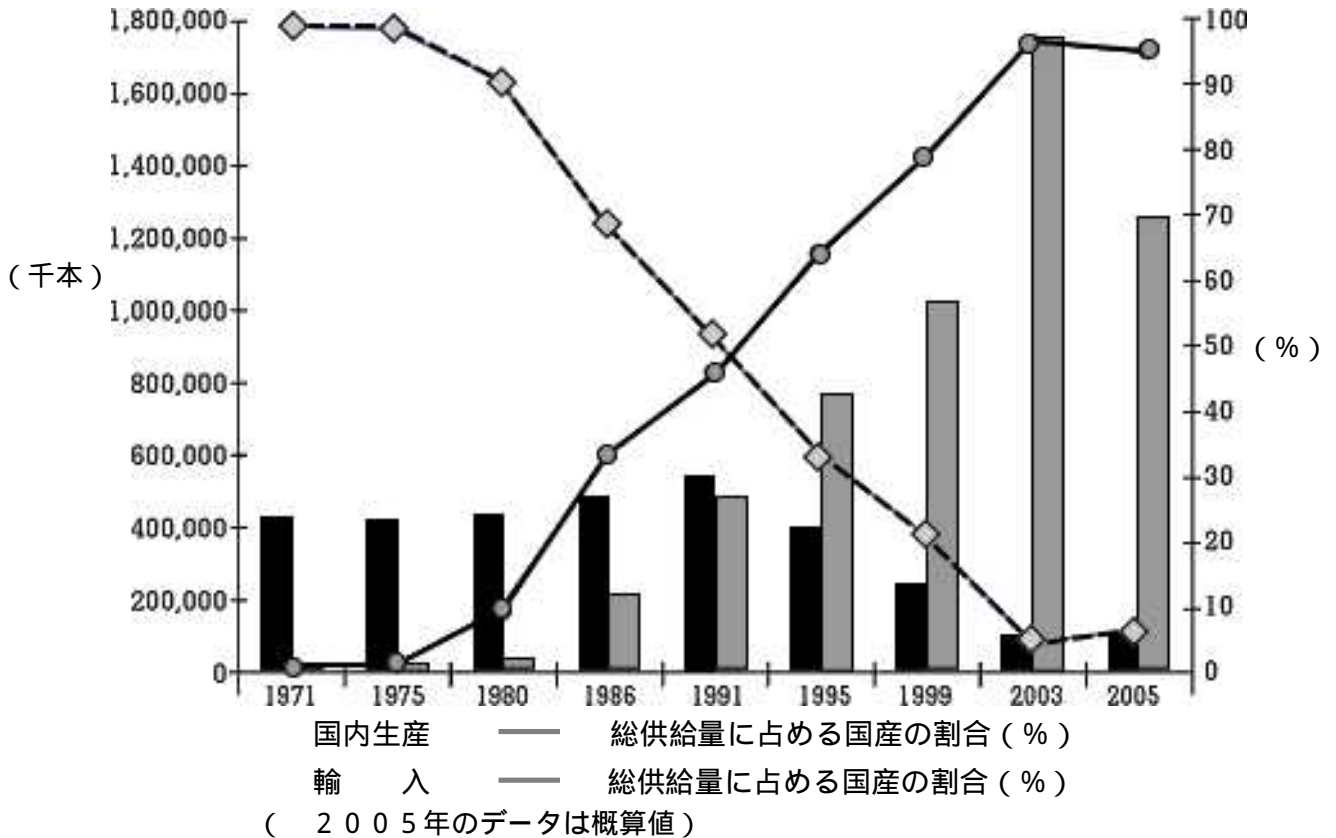
切花輸入量は、世界を震撼させたアメリカ同時多発テロ事件直後の2001年と2002年に激減したものの、その後増加の一途をたどっており輸入切花の市場における重要度は年々高まってきている(図9)。

重要品目とされるバラ、スタンダードカーネーション、ピンポンギクの輸入量の推移と国内生産量の推移を見てみると、いずれも輸入量が増加の一途をたどっているのに対し、国内生産量は減少の一途をたどっていることがわかる(図10~12)。

【図 9】アメリカにおける切花の輸入量の推移（単位：千本）

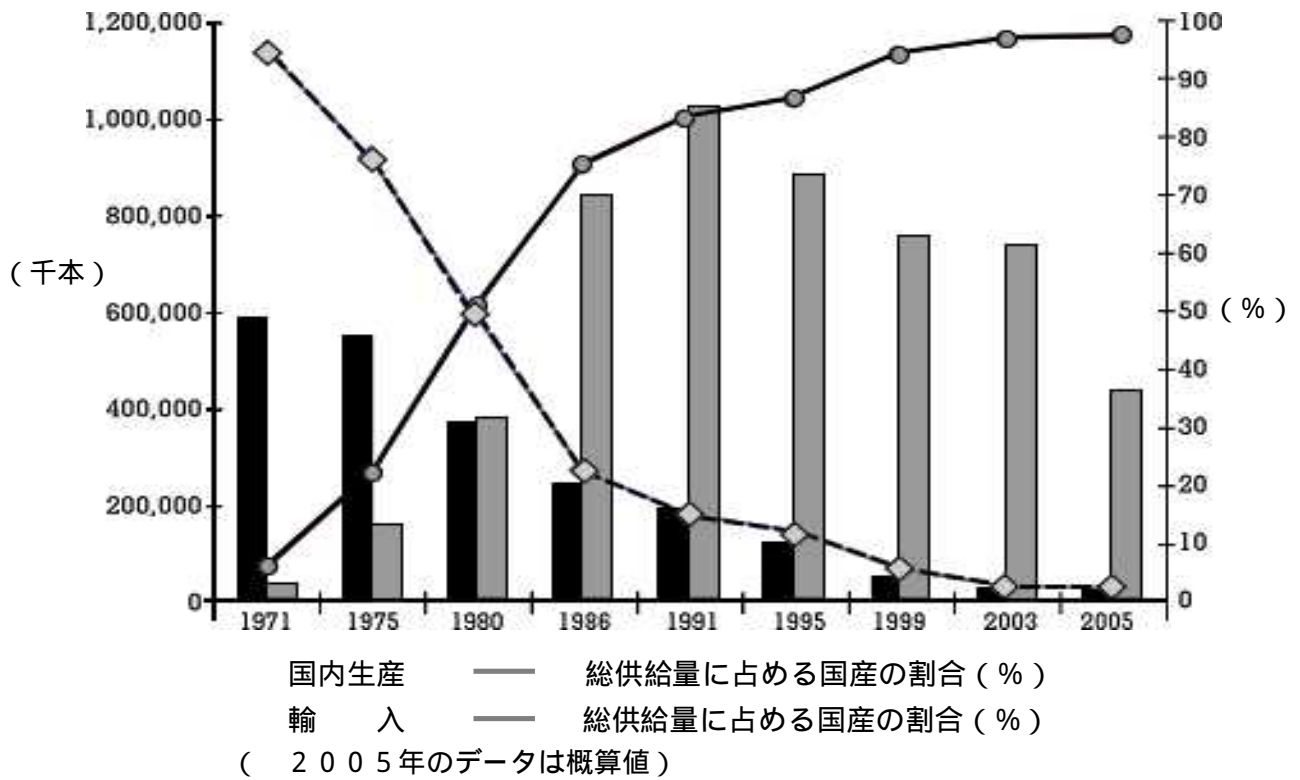


【図 10】バラの国内生産額と輸入量の推移（単位：千本、%）

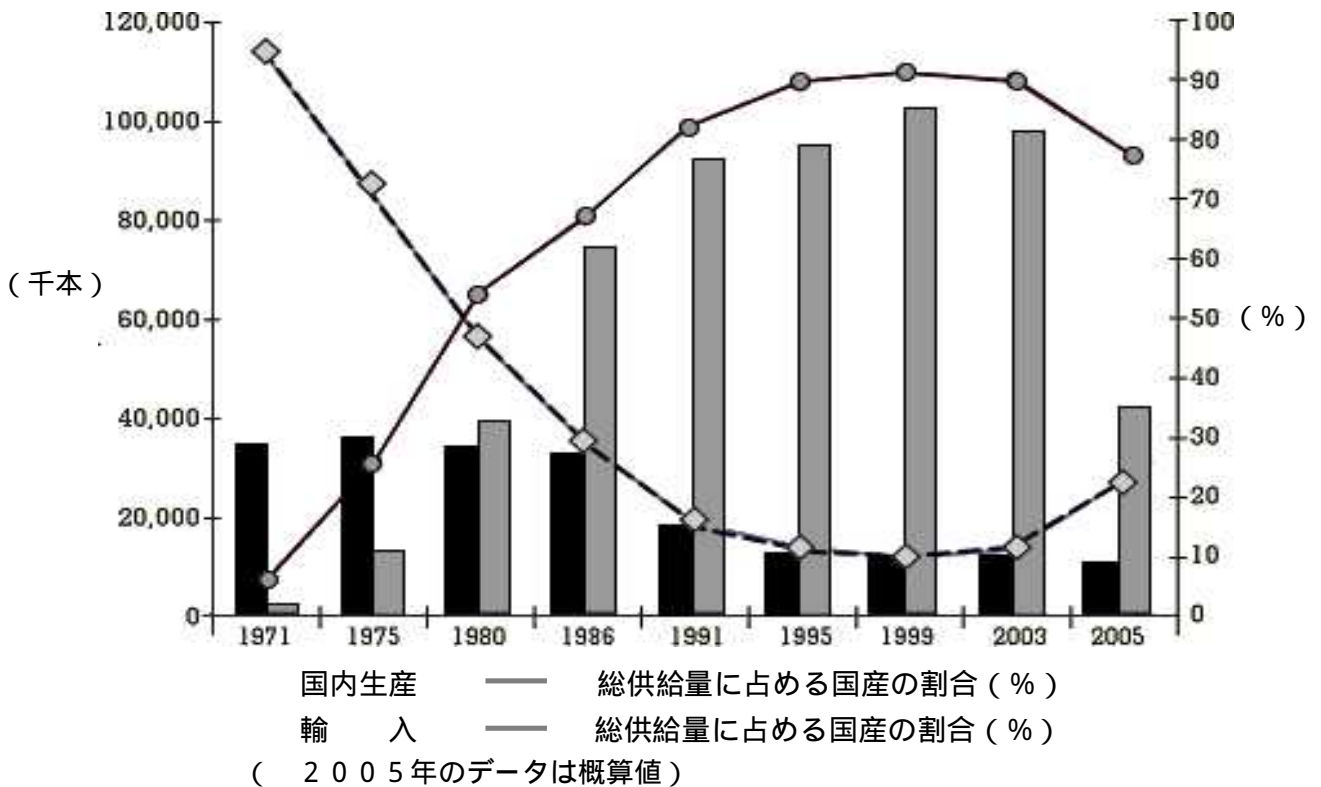


【図 1 1】カーネーション（スタンダード）の国内生産額と輸入量の推移

（単位：千本、％）



【図 1 2】ピンポンギクにおける国内生産額と輸入量の推移（単位：千本、％）



## 2 小売店における主要品目の小売価格の動向

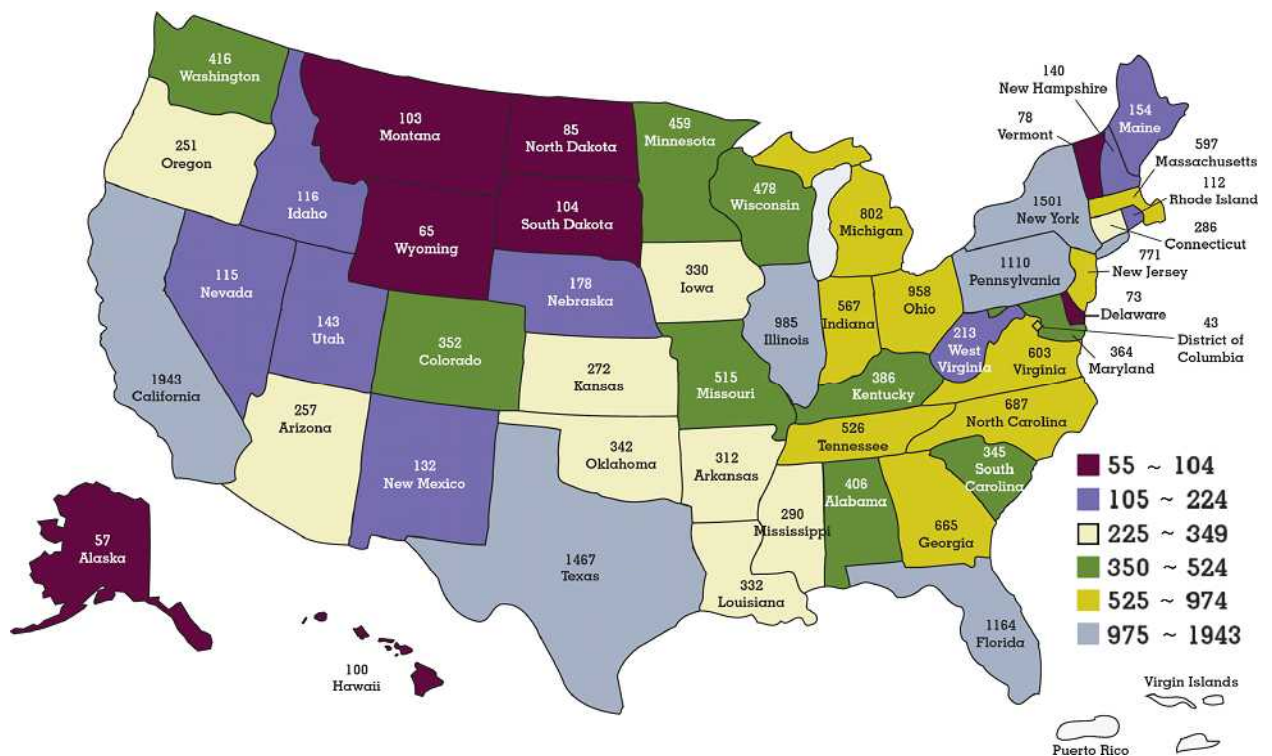
アメリカ国内の生花店の軒数の統計を見てみると（図13）、上位はカリフォルニア、テキサス、フロリダといった広大な面積の州が名を連ねるなか、ニューヨークとニューヨーク隣接するペンシルバニア、そして五大湖に面する工業都市シカゴを有するイリノイ州は、面積のわりに生花店が多く、また全体的に見て全土の東側の州に生花店が比較的多くあることが伺える。

これを、州ごとの人口で割った、生花店1軒あたりの人口では（図14）、アリゾナ、ネバダ、カリフォルニア、ユタ州といった西側と、中南部のテキサス州といった面積が比較的大きいところが上位を占めている。この結果は、単に生花店が少ないという側面と、人口が多いという側面と両方の要因が考えられる。アリゾナ、ネバダ、ユタ州は前者にあたり、ロサンゼルス、サンフランシスコを抱えるカリフォルニアとダラス、ヒューストンを抱えるテキサス州は後者に当たる。

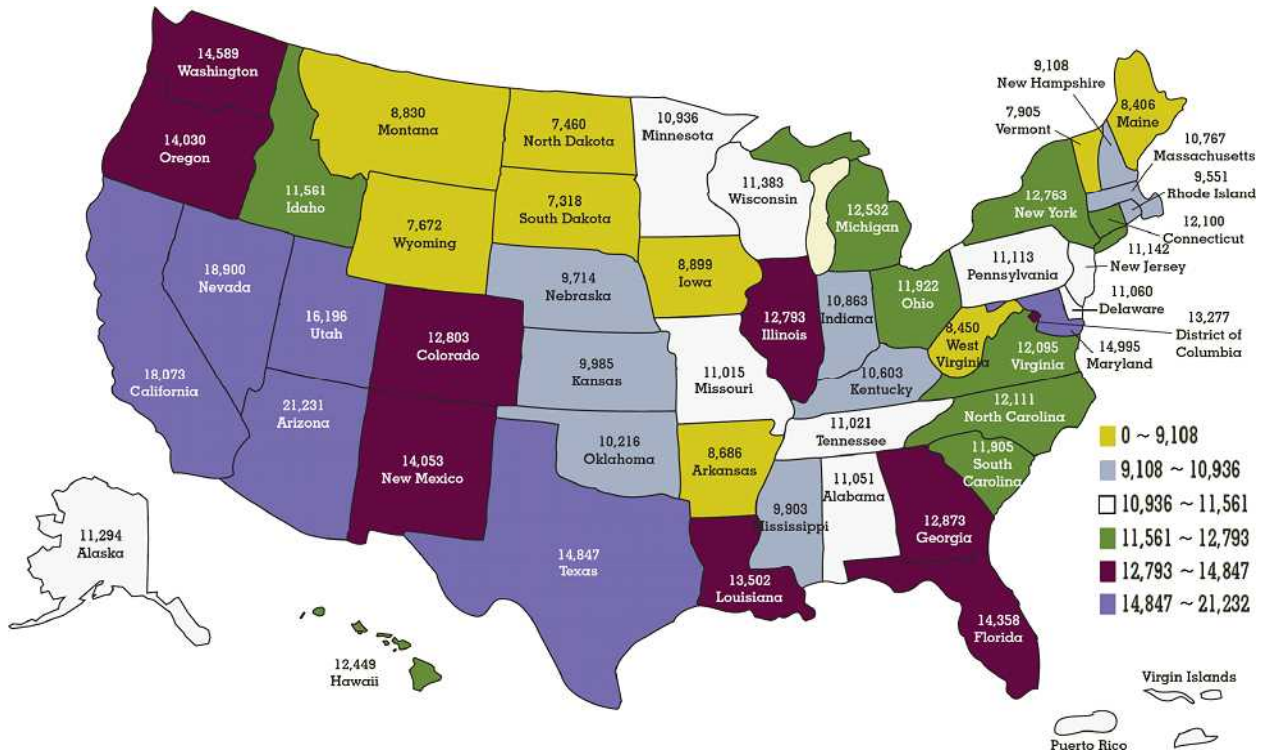
各州における生花店の平均売上高は、上位からデラウエア、ハワイ、ミネソタ、メリーランド、コネチカット、マサチューセッツ、ニューヨーク、イリノイ州の順に続き、ハワイ州を除きニューヨークを中心とした北東部と五大湖州周辺の州が上位を占める（図15）。

これを各州の人口で割り戻し、州人口1人当たりの年間購入額を算出すると、上述の消費地の傾向が更に浮き彫りとなる。（図16）。

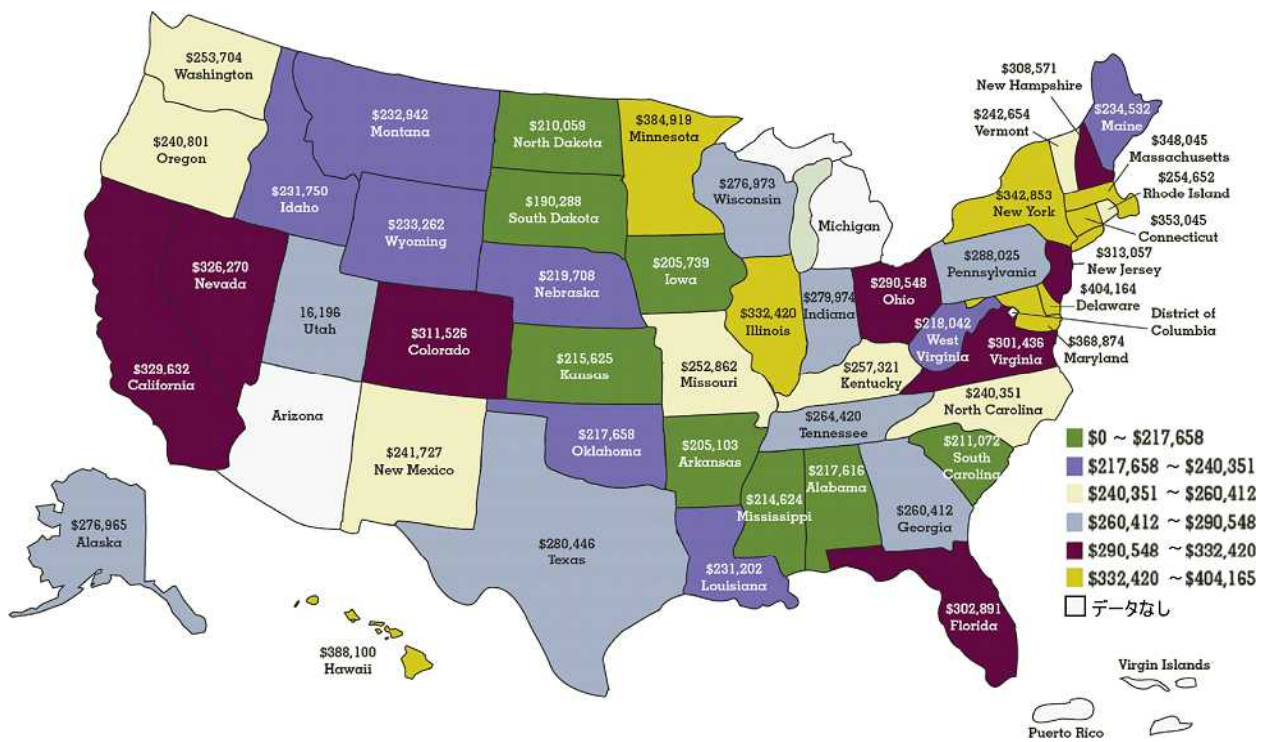
【図13】各州における生花店軒数 2002年（単位：軒数）



【図14】各州における生花店1軒当たりの人口 2002年(単位:人)

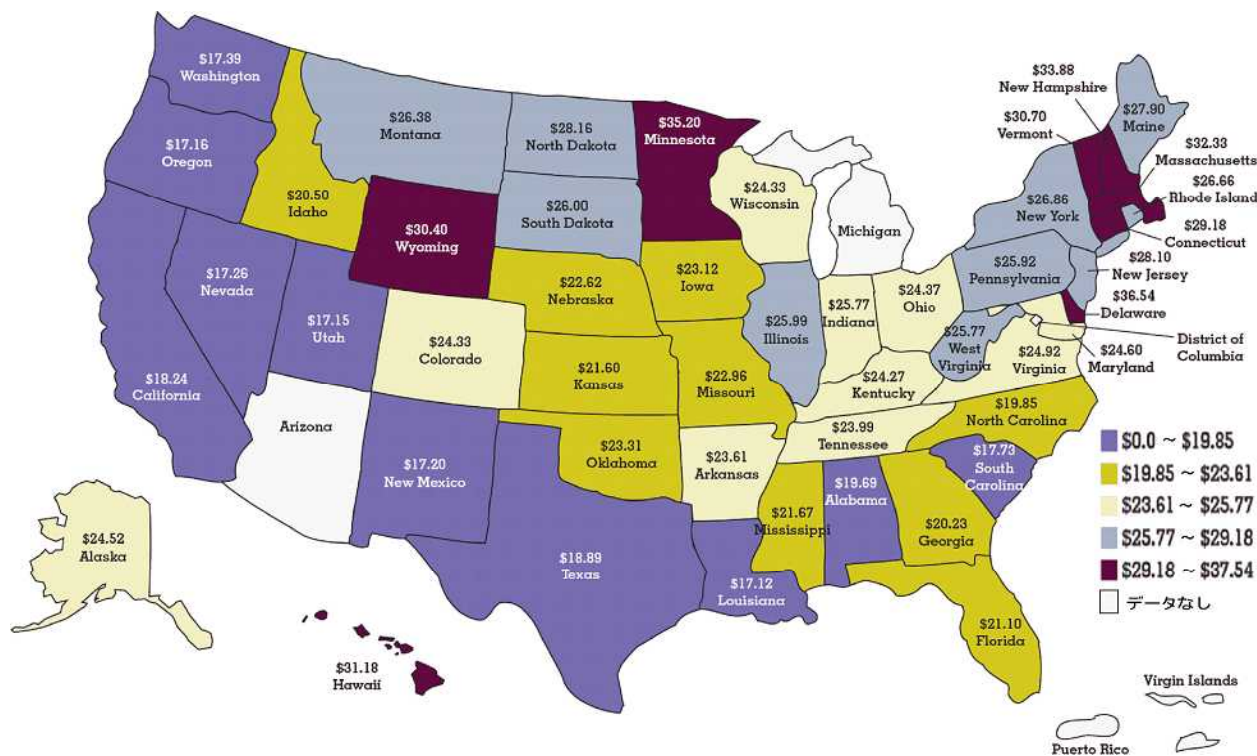


【図15】各州の生花店における平均売上 2002年(単位:USドル)





【図16】州人口1人当たりの年間購入額 2002年(単位:USドル)



【表5】アメリカにおける生花店数等の多い上位5州

順位	生花店軒数	生花店の1軒当たりの人口	生花店の平均売上	州人口1人当たりの年間購入額
1	カリフォルニア (1,943軒)	アリゾナ (21,231人)	デラウエア ( \$ 404,164 )	アリゾナ ( \$ 21,231 )
2	ニューヨーク (1,501軒)	ネバダ (18,900人)	ハワイ ( \$ 388,100 )	ネバダ ( \$ 18,900 )
3	テキサス (1,467軒)	カリフォルニア (18,073人)	ミネソタ ( \$ 384,919 )	カリフォルニア ( \$ 18,073 )
4	フロリダ (1,164軒)	ユタ (16,196人)	メリーランド ( \$ 368,874 )	ユタ ( \$ 16,196 )
5	ペンシルバニア (1,110軒)	テキサス (14,847人)	コネクチカット ( \$ 353,045 )	メリーランド ( \$ 14,995 )

(図13~17を元に制作)